

幅広い視点で患者さんに向き合う大切さ

今年5月7日からの約1カ月、山形県の鶴岡市立荘内病院にて総合診療学の臨床実習を行わせて頂きました。私は小児科、漢方内科で実習に臨みました。

小児科では救急を含む外来見学、入院患者さんの診察を経験しました。患者さんの疾患の幅が広く、ご自身で体調を述べるのが難しいことも多い中で、ご家族から丁寧に問診したり、極力泣かさぬよう慎重に診察したりすることの大切さを知りました。成人を対象とした総合診療とはまた異なる難しさ、楽しさを学べて本当に良かったです。帝王切開や乳幼児健診の見学もできて濃密な時間を過ごせました。

漢方内科の外来では、難治性の疼痛に苦しむ患者さんなど、多岐にわたる症状の患者さんの診察を見学しました。先生が漢方医学の概略・歴史だけでなく、患者さんに合わせた漢方薬の組み合わせの意図なども丁寧に説明していただき、診療科にとらわれない漢方の奥深さを学びました。

本実習を通じて小児や漢方といった切り口で総合診療学を学べて貴重な経験ができたと共に、一人一人の患者さんの症状に幅広い視点で向き合う大切さを学びました。今回学んだことを必ずや今後医師となった時に活かしていきたいと思えます。

最後に、親身に接して下さった先生方、私の希望に合わせて柔軟に日程を組んで下さった病院のスタッフの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。